

アサギマダラとヒヨドリバナ

「もう行くよ」とアサギマダラ

ヒヨドリバナの房 微かに震わせ

風の縁でたたむ羽の中
いくつもの光
その色は遠い空の
色を帯びてた

「ここに咲くあなたの香りは私の旅の道しるべ
だった」

「遠くへ行けばもう届かないでしょう」

ヒヨドリバナうつむき 細く影伸ばして

白い房をかすかに揺らして
届かぬ手のように

アサギマダラ答えず
ただ風を吸い込む

「この香りを最後の記憶に」

鮮やかな羽 空へ溶けゆく

「その羽のどこか 私の香りが」

残ってること静かに願う花